

応募者	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 鳥取支店
1. 活動名	損害保険会社ならではの「安全・安心な鳥取県づくり」に向けた取組
2. 表彰の対象となる活動の目的	鳥取県との「地方創生に関する包括連携協定」(2017年10月)にも基づき「交通安全」や「災害リスク」・「サイバーリスク」等様々な「リスク」に対しての「防災・減災」活動を実施することで「安全・安心」な鳥取県づくりを目指す。
3. 表彰の対象となる活動内容	(表彰の対象となる活動であることを確認して、チェックしてください。) (①実施期間、②対象者・参加人数、③実施場所、④活動概要などを記載してください。) (1)「楽しく学ぼう交通安全教室」開催: ①2022年4月②一般顧客(主に小学生とその家族)約220名③鳥取トヨペット本店 ④自転車シミュレーター体験(県警)・リフレクター(反射材)作成(当社)等自治体・県警・各企業様とも共同で開催。交通安全の意識向上と自転車乗車時のヘルメット着用を推進。 (2)安全運転エコドライブ開催: ①2023年1月②県内の企業・団体に所属される方・500名 ③県内で開催(県庁と共催予定)④主にマイカー運転時、専用車載器を使用し運転スコアで競って頂き安全運転・エコドライブを推進。合わせて取得した走行データを活用し、「交通安全MAP(データ)」や「路面状況把握システム」(2022年11月トライアル開始。) 「EBPM支援サービス」等へも活用。(一部予定)。 (3)水災発生時の「罹災証明申請サポート」取組開始: ①②倉吉市(2022年7月・米子市(2022年11月)③各市役所で覚書・協定締結④水害発生時に当社火災保険契約者の「罹災証明申請サポート」と「ドローンで撮影した画像・映像を自治体へ提供」することで住民の方々の災害からの早期復旧を支援する。合わせて「リアルタイム被害予測ウェブサイト・アプリ=cmap(シーマップ)」の一般無償提供も実施。

4. 表彰の対象となる活動の自己評価

①モデル性	(6に記載の活動において、特に他の団体等の模範となるような工夫などについて記載してください。) (1)についてSDGsのゴール17にもある「パートナーシップ」も視野にそれぞれの「強み」「特徴」を活かし来場者に「楽しく」交通安全への意識を高めて頂けた。参加者も200名を超えた。(2)(3)については県内では業界でも初の取組。「CSV×DX」(※1)をキーワードにデジタル技術も活用。
②ネットワーク	(6に記載の活動の効果高めるために活用した、又は新たに構築したネットワーク(個人・団体とのつながり)について記載してください。) 特に(1)の取組については県庁・県警・ディーラー・JAF等と共同で開催。子育て家族支援団体TottriMama's様からも広く発信。(2)は地域企業・団体様を幅広く巻き込んでの取組。(3)は自治体様との地方創生に関する連携協定取組の一環
③包摂性	(6に記載の活動において、「誰一人取り残さない」の理念に則った取組であることや、多様性という視点が活動に盛り込まれていることなどについて記載してください。) 全取組について対象者を絞ることなく開催。交通事故を起こさない。合わせない。万が一水害(自然災害)にあった際に自治体と連携し早期復旧を支援することで「取り残されることがないよう」な取組を実施。
④統合性	(6に記載の活動において、経済・社会・環境の分野における関連課題との相互関連性・相乗効果や、統合的解決の視点について記載してください。) (1)(2)交通安全・事故低減を実現。事故頻度が減少。交通事故被害者を減らす。自動車修理・廃車の減少及びエコドライブでCO2排出量削減へも貢献。DXも活用し走行データ活用により各種交通・道路政策立案等への貢献。
⑤継続性	(6に記載の活動において、活動を継続していくために努力している点(例:財源の確保など)、及び今後の計画について記載してください。) (1)(2)2020年度より取組継続中。春・夏・秋・年末の「交通安全運動期間」に合わせて開催。コロナ感染拡大により開催を断念したケースも多々あるが継続した取組を意識し活動。常に県警等の支援も頂き活動。(3)は今年度からの取組ですが、倉吉市(本年7月)は全国で4例目。中国地域初。(当社内)交通安全イベント6回開催。(コロナにより1回)。コンテストは2020年12月~2021年1月で一度開催。

その他、6に記載の活動又は運営主体の特徴、取組のPR等を記載してください。
 当社は「地域密着」をスローガンに掲げ、現在「CSV×DX」=「Creating Shared Value(社会との共通価値創造)」、「DX(データ・デジタル技術を活用し価値提供を変革させること)」(※1)活動を実施。保険会社ならではのノウハウやデータ・デジタルを活用し地域の様々な課題解決に向け取り組んでいます。リスク対策(交通・自然災害・サイバー犯罪等)だけではなく多様性も意識した「車いすバスケットの講演・体験会」の開催やNPO等の団体の活動を支援する助成プログラムや寄附活動も実施しています。